

こうずい
綱島 洪水とのたたかい

(2013年4月版・2021年一部改訂)

原作：鷲山龍太郎

監修：飯田助知

綱島の町で、今、皆さんが水害のこわさに気づくこともなく生活できるのは、綱島の昔からの人々の努力のおかげであることを学んでほしいと願います。しかし、洪水との闘いの歴史は、今はそれがほとんどないだけに、文をただ読むだけでは、実感がわかないほど遠く感じるものと思います。

そこで、皆さんが、昔の人々になりきり、参加しながら学ぶことによって、学習を深めていくことを期待して、「劇の台本」として資料をまとめてみました。まずは、順番に読んでみたり、クラス全員がナレーターや登場人物になりきって読んだり、劇や紙芝居、ペープサート、ビデオ作りなどに挑戦したりしてみるとよいでしょう。

この文は、歴史の資料をもとに、私がある部分想像しながら3年生、4年生や5年生の皆さんが教材として使えるようにまとめたものです。皆さんが、資料を調べたり、インタビューをしたりしてさらに深く学習を深めることにより、ここは違うのではないかと考えたり、文の一部を変えてみたり、その時の人々の思いを考えて、せりふを変えてみたりしてもよいでしょう。ただし、文やセリフを変えるためには、歴史の資料や実際の人へのインタビューなどを根拠にしてよりよいものにしてみてください。綱島を愛し、綱島に生きる皆さんには、綱島の歴史や自然を語れる人になってほしい。その願いをこめて、この台本を書きました。

2013年4月 原作 北綱島小学校 第十代校長 鷲山龍太郎

お 礼

なお、この台本は飯田助知先生の温かいご助言をいただき、完成を見ました。また、池谷様からは多くの資料やお話をいただき、それを参考にさせていただきました。お礼申し上げます。

※使用単元例 3年社会「綱島桃の歴史」及び発展の総合 4年社会「地域の発展につくした先人の働き」5年国語「百年の堤防を築く」副読本 理科「流れる水の働き」総合「早瀬川を知ろう」

(横浜市立北綱島小学校職員室データサーバ「綱島郷土史」フォルダに保管のこと)

配 役

1 縄文の海にうかぶ「綱島」		4 明治時代	
ナレ1		池谷	
ナレ2		飯田	
ナレ3		ナレ5	
縄文人1		飯田助夫	
縄文人2			
縄文人3		5 昭和	
2 綱島古墳を作った人々		ナレ6	
ナレ4		ナレ7	
古墳時代村人1		ナレ8	
古墳時代村人2		ナレ10	
若い主		飯田助夫(衆議院議員)	
古墳時代村人3		内務大臣(末次海軍大将)	
		飯田助丸	
3 江戸時代		住民1	
ナレ5		住民2	
村人2		住民3	
村人3		住民4	
村人4		飯田助知	
ナレ6			
池谷政之丞		ナレ11	
サムライ1		ナレ12	
サムライ2			

綱島 こうずい 洪水とのたたかい

1 縄文の海にうかぶ「綱島」

ナレ1 今から6000年も前、縄文時代と言われる時代のとても栄えたときです。ここは、今の私たちの学区です。そこは、陸地ではなく、高田の方まで続く入り江の海となっていました。そこに離れ島として浮かんでいるのが、私たちの町の地名ともなっている、今の綱島台です。

縄文の人々は、海岸から貝をとったり、入り江の海で魚をとったりしてくらしています。

今日の日吉台や、綱島台からは、この時代の人々の暮らしたあとや、貝殻かいがらを捨てた貝塚が見つかるのです。

縄文人1 (綱島台の海岸から) おーい、今日の漁はどうだ〜？

縄文人2 (丸木舟から) 今日は潮の流れがよくてよー、魚がこんなにとれたぞー！

縄文人3 今日は、潮が大きく引いてよー、こんなに貝がとれたぞー？今日はカキもたくさん取れたぞー

縄文人1 この海はいい海だなあ。波は静かだし、魚も貝もたくさんでよー。

縄文人2 でもなあ、綱島は丸木舟にのらんとどこにもいけないから不便だなあ。

縄文人3 さあ、今日も貝の煮物をつくるぞ。

ナレ2 この時代、地球全体がとても温かく、陸の氷は解け、水面は今より3mも高かったのです。私たちの綱島の土地は、海でした。その証拠に、学校の地下からも鶴見川の川底からもカキなどの海の貝の貝殻がたくさん出てくるのです。こうして、海だった綱島は低く、平らで、川に近いという特徴からやがて米作りに適した土地となっていきました。また、今では東京や横浜に近い住宅地として発展しています。しかし、平らで、低く、川に近いことは、洪水という危険と背中合わせとなる運命をもっていました。

2 古墳時代

ナレ3 縄文の時代は進み、地球は少しずつ今のような気温になってきました。海だった私たちの町は、早瀬川や鶴見川が運んだ泥や砂がたまり、やがて海面が引いて陸になっていました。日本に稲作が伝わり、人々は、稲作に取り組みました。綱島公園からは、縄文時代の道具、稲作が伝わった後の弥生時代の道具、そして、日本に国が誕生していく古墳時代の道具が見つかっています。

時は、1500年前、古墳時代と言われる時代です。

古墳時代村人1 ああ、今年も苦労して米を育てたのに。洪水でまたやられてしまった。去年までのたくわえと、ざっこくを集めて生きのびるしかない。

古墳時代村人2 川で魚やカニもとろう。ドングリもたくさん集めなければ。大昔のくらしにもどるほかはない。

若い主ぬし この十年は、われらが主のおかげで、みんなで川の流れを変えて守ることができた。その父である主がなくなられたのだ。主の墓をつくるのだ。

古墳時代村人3 そうだ、墓をつくるなら、山の一番高い所にしよう。

下につくったのでは、墓もいずれ洪水で流されてしまいます。そして、主には山の上からわれらを見下ろして見守ってもらいましょう。

ナレ4 こうして、米作りがはじまってから、人々は、この土地の川の恵みで田んぼをつくり、米をつくれるありがたさと、必ずおそってくる台風と洪水に苦しみながら生活をしていたと考えられます。

綱島台には古墳があります。米作りを始めていた古墳時代の人々も、洪水で苦しんでいたにちがいません。なぜなら、江戸時代の前までは、川は洪水を起こす度に、その流れを変え、崖を削り、地形すら変えていたからです。この川の働きで、私たちの綱島の山に囲まれた平らな地形や、吉田の大地から切り離された綱島台の地形も作られてきたのです。

3 江戸時代

ナレ5 江戸時代の鶴見川や早渕川は、今とはずいぶん違った姿をしていました。今は深く掘りこまれた早渕川、川幅が広い鶴見川、そして丈夫な堤防を見ることができますが、江戸時代の鶴見川は川幅はずってせまく、早渕川も、川底は今よりずっと上にありました。人々は、江戸時代の進んだ堤防技術はもっていましたが、それはある程度の洪水を堤防から流し込み、被害を最小限にしようというもので、どこかの村が堤防を高くすると他の村の洪水被害が大きくなるというものでした。

それでも、江戸時代の綱島の土地で、人々は田んぼを耕し、米作りにはげんでいました。人々は、虫の大量発生と闘い、雀とも闘いながら、少しでも米をたくさんとろうと努力していたのです。

村人2 (もっこを二人でかついで登場) われらが早渕川は美しい川だ。うまい魚もたくさんとれる。フナ、コイ、ハヤ、ドジョウ、ウナギ、ボラ、モクズガニやテナガエビもとれる。早渕川のめぐみで今年は豊作だが、また、秋になれば嵐が来る。嵐が来れば大水が出る。

村人3

しかし、鶴見川が曲がりくねっている、亀の小橋の岩どこと駒岡の岩どこと鶴見のがら洲のせいで、水があふれ、毎年のように洪水に苦しむのが綱島に生きる者のさだめだ。將軍様の直轄領なのにこのさまだ。どうして將軍様はこの苦しみを救ってくださらないのだ。

村人2 おい、お役人様に聞こえたらたいへんだぞ。それより、10日も水につかると米から芽が出て食べられなくなる。つらいところだ。堤防を少しでも高くしよう。もっとつつみを高くしなければならぬ。がんばろう。

村人3 しかし、高くしすぎると、川上の新田村や、川下の鶴見村と争いになる。うまく大水の被害を分け合うしかないのだ。

村人4 早渕川は、いつもは水が少ない。長年にわたり、吉田の村とは、早渕川から水をとる時間をめぐって争ってきた。水の取り方で争い、洪水の痛み分けで争っているが、もう少し、みなで力を合わせて洪水と闘えぬものか。いつもは水が少ないのに、少し大雨がふればあふれんばかりになる。

「カエルがしょんべんをしても洪水になる。」と昔から言われる川だ。困ったものだ。

村人1 今年は虫は出なかったから、実りがいい。これからは、すずめとの闘いだな。

しかし、風が出てきた。あの雲は、嵐がやってくる前触れではないか。

ナレ6 村人の心配の通り、今でいう台風が襲いました。

村人1 おおい、早渕川のつつみが切れたぞ。

村人2 大綱のつつみも切れた。

村人3 「じゃかご」を運べ。あと二十人はいるぞ。土囊どのおうもあるだけ運べ。みんな夜も見張るんだ。どこか少しでも堤防ていぼうが切れたら知らせるんだ。

村人4 ああ、堤防が切れた。もうだめだ！人が流される。みんな、命だけは落とすな！

ナレ6 綱島の村々は水浸みずびたしになりました。田んぼだった綱島の村は、湖のようになってしまうのです。人々は、このようなときのために家に舟をもっており、それで行き来をしたり、お米を少しでもすくいあげたりするしごとをしなければなりませんでした。

村人2 今年も米がいつもの半分しかとれなくなりました。年貢をかんべんしていただけるでしょうか。これだから、「新羽にっばや綱島には嫁よめにやるな。」と言われるんだ。

村人4 おお、池谷様だ。池谷様、これで年貢をおさめたら、私たちは何も食べるが残りません。東海道とうかいどうの助郷すけごうの仕事も重く、とてもやっていけないです。

1832年

池谷政之丞いけのやまさのじょう わかっている。私に考えがある。北綱島の飯田さんと、連名で手紙を書く。そしてわしが代表して「かご訴そ」を行う。

村人1 それでは池谷様が打首獄門うちくびごくもんになってしまうではありませんか。

池谷 かまわぬ！今、みな苦しさを分かってもらえなければ、救われない。

もう戻れないかもしれないな。行ってくる。新しいふんどしを出してくれ。

ナレ6 池谷さんは、江戸に向かい、老中様のかごを待ち受け、手紙を渡そうとしました。

池谷 老中様ろうじゅうさま、申し上げます。幕府の直轄地ちよつかつち、南綱島の池谷いけのやでございます。北綱島の飯田とともに、願いの書をもって参上しました。この願いをどうか、お聞きとどけてください。

サムライ1 無礼者ろうじゅうさま、老中様のかごと知ってのろうぜきか？

池谷 私の命はおあずけします。

しかし、鶴見川は、駒岡のまがりて浅くなった岩盤が水をせき止め、さらに鶴見のガラ瀬が水を押し上げ、大水が出れば一夜で満水となり、百姓家の床上まで水が押し上げ、たくわえの食料も水ぐされになることもしばしば。米作りに力を注いでもかいたがないほどで、村々の百姓は逃げ出すほかないくらい困っております。

どうか、老中様、鶴見川の工事をお上の力かみで行ってください。

サムライ2 老中様もそちらの苦しみはわかっている。しかし、幕府の財政ざいせいもきびしいおり、願いはすぐにはかなえられぬ。

池谷 しかし、このままでは、綱島の人々は救われません。

老中 それでは、幕府より五百両の金子きんすをかし下そう。あとは、そちらで工面くめんしてやってみるがよい。

池谷 ははあ

サムライ 老中様にこのぶれいをはたらいたかぎり、打首獄門うちくびごくもんはかくごと見たぞ。

池谷 もとよりかくごの上でございます。

サムライ1 ひっとらえよ

ナレ7 池谷さんは一月ほど牢^{ろう}に入れられましたが、ほうめんとなり、幕府^{ぼくふ}から貸し与えられたお金と村々から集めたお金で駒岡^{こまおか}の岩盤^{がんばん}くずしと川幅を広げる仕事に取り組みました。

村人1 だいぶ川幅が広がり、少しは被害が少なくなるだろう。

池谷 しかし、川上の流れがよくなれば、川下の洪水は治まらぬ。川下の堤防を高くすれば川上が水につかる。難しいものよ。洪水との闘いはいつまで続くことか。

ナレ7 こうして、大変な努力をしながら、綱島の人々は力を合わせて洪水との闘いに苦しみながらも鶴見川の工事をすすめていたのです。

4 明治時代

サムライの時代が終わり、明治時代になりました。

池谷 飯田さん、お宅では、氷作りをはじめたそうだな。

飯田 北綱島の地は、綱島台^{つなしまだい}の山陰^{やまかげ}になる。その池に、清^{きよ}い水が湧^わきくんだり、よい氷ができる。それを洞窟^{どうくつ}の氷室^{ひむろ}に入れておけば、高値^{たかね}で売れる氷となる。夏に氷を食べばうまいし、病人の熱さましや、魚の腐れ防止に氷はかかせないからね。日本の絹^{きぬ}が世界に売れるようになったので、養蚕もやってみよう。桑畑も増やしていこう。

こうして、村人が働けばよい現金収入になる。洪水はあっても、氷もカイコもは取れるからね。

それはそうと、池谷さん、あなたは、よい桃^{ひんしゅ}の品種^{ひんしゅ}を作ること成功したという話じゃが。

池谷 苦労しました。この土地は洪水が重なってできた土地。この土によく合った品種をみつけ、かけ合わせたのです。桃栗^{ももくり}三年柿^{さんねんかき}八年^{はちねん}というでしょう。何年もかかりましたが、おいしいよい桃ができました。

飯田 これはうまい。この綱島の名物になるのではないですか。何という品種の名前にしたのですか？

池谷 日月桃^{じつげつとう}（じつげつとう）という名前にしたのです。この桃は、7月には収穫^{しゅうかく}できます。9月になり、台風が来る前に取り込んで、東京に売れば、きとお金になります。

ナレ8 こうして、綱島は明治時代から昭和にかけて桃畑でいっぱい^{いっぱい}の里になっていったのです。

日月桃は、全国に出荷され、有名ブランドになりました。洪水で苦しんできた綱島の人々はこぞって桃をつくりました。一時は90軒の農家が桃作りに精を出していました。

ナレ9 明治40年、この年には50年ぶりとも言われる大水が出ました。「神奈川県大洪水、鶴見海となる。」とあります。次いで明治43年、さらに大洪水になり、堤防からは水があふれ出てたんぼや桑^{くわ}ばたけにおそいかかりました。

道路も鉄道の橋も水をかぶり、鶴見川沿いの村々は孤立しました。

桑^{くわ}ばたけもすべてだめになり、人々は太ったカイコにやるえさがなく、川に流したと伝えられています。

この被害から、大正10年には、鶴見川改修^{つるみかわかいしゅう}期成同盟^{きせいどうめい}ができ、鶴見川^{つるみかわ}の改善^{かいぜん}をもとめる運動はさらに活発になりました。

飯田助夫 県知事様、私は、会長をつとめます飯田助夫と申します。すでに国にお願いを出してはおりませんが、鶴見川改修の予算そちは、なかなかいただけていない状況です。

鶴見川の下流は、京浜工業地帯として目をうたがうほどの発展をしておりますが、鶴見川の上流は農耕の盛んな地域として今でも重要です。また、すでに下流は都市として発展しており、これからの大洪水は、交通、経済、などに大きな被害を及ぼします。改修は鶴見川の船の航行をよくするという良い点もあります。そして、農民たちの生活を安定させることは江戸時代からの悲願です。どうか、国に働きかけるとともに、県としても鶴見川の改修にお力をいただきますようお願い申し上げます。

もし、今、改修がなされなければ、これから起きる洪水は今までにない大きな被害をもたらすでしょう。

ナレ9 それでも、県や国はなかなか改修に取り組んでくれませんでした。飯田さんたち水予防組合の人々は、繰り返しお願いをし続けました。

5 昭和

ナレ10 昭和になっても、洪水は繰り返されました。

昭和13年。太平洋戦争が始まる3年前に、昭和13年の洪水と言われる大洪水がありました。

梅雨時に起きた大雨が重なり、この大洪水では鶴見から綱島まで人の背丈ほどの洪水となり。綱島では7日も水が引きませんでした。このときの洪水で、綱島の桃の多くが枯れてしまったのです。

ナレ11 あまりの被害に、県知事が、内務大臣（末次海軍大将）を視察に招くことができました。

横浜市長、そして飯田さんをともなって視察にきました。大臣や県知事たちは腰まであるゴム長をはいて、船で綱島橋の近くの料亭の二階に直接乗りつけ、そこで説明をしました。

飯田助夫衆議院議員 大臣、ごらんください。鶴見川流域はまるで海のようなようです。田畑も全滅です。しかも、帝都東京市にこれほど近い場所で江戸時代から変わることのないこのありさまです。今は、国道や鉄道も走っていますが、帝都に向かう国道鉄道が二日間も水をかぶって通れないということがゆるされてよいのでしょうか。

大臣 たしかにこれはひどい。こんな江戸時代とかわらない野蛮な川が東京近くにあるとは。

ううん。今は戦時下であるが、帝国議会にはかつてみよう。

ナレ12 こうして、昭和14年、改修工事が国として決定されました。しかし、昭和16年、太平洋戦争が始まります。戦争が激しくなる中、予算は削られ、思うように工事は進みませんでした。

そこで、人々は神奈川県初の「水防団」を結成し、訓練を積んで、破れた堤防を俵を三段積んで直すなど、水害と戦い続けました。

ナレ13 戦争が終わり、昭和33年にもたいへんな水害が起きました。この時は、自衛隊も出動して、

早濶川谷流点から3キロ上流まで土嚢を積み上げて洪水と闘いました。

しかし、堤防が高くなった分、堤防の内側に入り込んだ水はたいへんな高さとなり、しかもなかなか水はひきませんでした。都市として発展しはじめた鶴見なども大被害をうけました。

小林重雄 もう水は堤防よりどんどん高くなっている。土嚢を運べ、杭を打て。消防団は、とにかくがんばるんだ。

ナレ14 北綱島小学校ができる3年前の昭和51年にも大洪水がありました。すでに住宅街が増え、綱島の町が今のようにたくさんの人が住む街への変わっていく中、洪水の危険は大きな問題となりました。そこで、鶴見区と港北区の人々は昭和52年鶴見川改修促進総決起集会を開き、国にはたらしめることにしました。

飯田助丸 ^{いいだすけまる} 今や、鶴見川は60%が町となった典型的な都市河川です。にもかかわらず、改修予算が少なく、しっかりとした堤防がある場所は少なく、川底には土砂がつもり、下流の鶴見では堤防がない場所すらあります。

昨年のも、自衛隊の出動を要請する事態となりましたが、あと数時間大雨が続けば、洪水は鶴見川全域におよび、都市となったこの鶴見川流域では数千人の死傷者を出す大惨事となっていたことはまちがいありません。

一年間に18億円の予算を二倍以上に増やし、とりあえず、1秒間に900トン、最終的には1秒間に1800トン流すことができる川にできるよう、予算を出してください。

ナレ15 その結果、国の都市河川対策においても、鶴見川は重視され、たくさんの予算がつき、鶴見川総合治水対策が始まったのです。

昭和54年、つまり北綱島小学校が誕生したのと同じ年、大規模な浚渫工事が始まったのです。

住民1 なんだあの不思議な形をした船は？しかも、パイプがおっぼみたいに川下まで続いているじゃないか。

住民2 新型のしゅんせつ船「つるみ」だよ。強力なブースターポンプで泥を吸い上げ、海まで運んでいくんだよ。

住民3 じゃあ海が埋まってしまうではないか。

住民4 その通りさ。ちょうど今、河口で大黒埠頭という埋立地を作っている、そこに運ぶんだから

住民1 ^{いっせきにちょう}一石二鳥というわけか。

住民2 早渕川の合流点まで、4年かけて鶴見川の川底を深くするし、川も広がる。鶴見川はずいぶんと姿のちがう川になるそうだよ。早渕川もずっと深く掘り下げられる。これからはそう簡単には洪水が出ない町になるんだ。

住民3 私の家も、何度も洪水にやられた。1階が全部水につかったこともあった。早く工事が完成するといいな。

住民3 しかし、それだけでは川に流れる水は抑えられないので、あちらこちらに「遊水地」をつくって、大雨の水を一時ためておく工夫も進んでいる。鯛が崎公園の広場もその遊水地だって知っていたか？

住民4 池としては巨大なものも作られる。小机のあたり、つまり、鶴見川のS字カーブの手前で洪水の前に水をためて、下流に一気に行かないようにするそうさ。

住民2 その他にも、堤防の内側に入った水を出すための大型ポンプや川の水位を知らせて対策を決めるシステムもできるそうさ。

住民 これです、港北区も安心して生活できる土地に生まれ変わるんだね。

こうして、昭和54年

住民4 しかし、昔のここらは森がたくさんあったから、森が水を吸って、洪水にならないようにしてくれていたと爺さんが言っていた。今、どんどん森は少なくなり、道路はアスファルト、山の上まで住宅

でびっしりだ。

住民1 森は残さなければならない。綱島の森も大切にしなければ。飯田先生、綱島の森も、やがて住宅地になってしまうのでしょうか？

飯田助知 いいえ、綱島の森は私有地ではありますが、この町の自然として大切な存在です。昔は森が雨水を吸って洪水を抑える働きをしていました。小さい森ですが、綱島の、森も、鶴見川につながっているのです。綱島市民の森として、皆さんと大切にしていきたいです。綱島は災害と闘ってきた土地です。綱島の桃も水害との闘いの産物に他なりません。自然に親しみ、自然を理解し、災害と闘うことが大切なのです。

ナレ16 2004年には、全国的に被害を出した台風がやってきましたが、多目的遊水地がはたらき、昔のような洪水にはなりませんでした。

鶴見川流域センターでは、川の水位の様子をいつも観測し、すぐに対策を打てるようにしています。また、鶴見川流域の地形や、鶴見川の生き物の展示もされていて、たくさんの資料もあって鶴見川の自然に親しめるようになっています。

こうして、大昔から人々を苦しめていた鶴見川や早渕川の洪水のおそれをほとんど感じることなく私たちはこの町に生活しています。

私たちの町の土地を作った鶴見川と早渕川、生き物も帰ってきた自然豊かなわたしたちの川。

しかし、洪水と人々との長年の闘いがあったことを、この綱島に住む私たちは知らなければなりません。昔からの人々のはたらきにより、洪水対策は今、実現したのです。

そして、洪水の危険が0でないこと。洪水が起きたらどうするべきかも学びましょう。

ナレ17 「鶴見川総合治水対策」の効果もあり、2019年の台風19号でも持ちこたえてくれました。

しかし、最近はまだなかったような水害が日本全国でも、世界各地でも起きています。地球温暖化による気候変動が原因ではないかと言われています。ハザードマップを見ると北綱島小学校の学区は浸水想定域です。洪水から自分と家族の命を守るためにどうしたらいいか、水害と闘ってきた歴史とこれからの時代の防災を私たちはしっかり考えていきたいと思っています。

(この部分2021年に改訂)

参考文献 港北区史 鶴見川水害予防組合史 綱島小学校 社会科資料「あばれ鶴見川にいどむ」
飯田助知様のお話 池谷様のお話 小林重雄様のお話 他

歴史を学ぶ楽しみ

飯田助知

人間の歴史は川とのかかわりから始まった。私たちのふるさと、農業はもとより地域のほとんどの産業は川を仲立ちとして発展してきた。

その川は、ふだんはおだやかな表情をしているものの、ひとたび機嫌をそこねると一転して恐怖の存在になった。その猛威とたたかい、それをいかになだめるかに人々は全知全能をふりしぼった。

この歴史を次の世代にどう伝えるかは課題だった。この度、自然科学の研究者であり、かつ教育の専門家である鷺山龍太郎先生によって、「ドラマを通して学ぶ」シナリオができあがった。斬新な着想であり、これ自身が地域の貴重な記録であると思う。このドラマを演じる体験を通して、過去を具体的に知り、未来へ備えると同時に夢が育まれる。これは最高の学習ではないかと思う。

